

# 学校臨床に関わる事例検討会 2008年度活動報告

## 1. 会の目的

本検討会は、生活心理研究所の活動の一環として、昭和女子大学大学院生活機構研究科心理学専攻に属した教員や修了生を中心に構成され、会員が担当している主として児童・生徒に関わる事例の検討を通して、発達学校臨床に関わる人間としての資質の向上と識見を高めることを目的としている。

## 2. 研究会のメンバー構成

昭和女子大学大学院生活機構研究科心理学専攻の修了生のうち、第10期修了生7名と第11期3名から構成され、これに世話役として三浦香苗教授が常時出席し、また、助言者として平尾美生子元本学教授および田中千穂武蔵大学学生相談センターカウンセラーが参加している。

## 3. 活動内容

	開催日時	レポート内容	参加者
第1回	2008年4月19日 16:00~18:00	孤立している中学校男子生徒の1年半	8名
第2回	2008年5月24日 16:00~18:00	万引きを繰り返す児童への対応	7名
第3回	2008年6月28日 16:00~18:30	知的な遅れのある児童への対応と校内連携	8名
第4回	2008年8月2日 16:00~18:00	中国籍の男子の登校しぶり	7名
第5回	2008年10月25日 15:30~17:30	生活困窮家庭の母親との面接	8名
第6回	2008年11月29日 15:30~17:30	新米巡回指導員が学校で果たすべき役割	8名
第7回	2008年12月20日 15:00~17:00	落ち着きのない児童への対応と担任との協同	7名
第8回	2009年1月24日 15:00~17:00	情緒不安定の母親への支援のための連携	7名

## 4. 本年度活動の総括

比較的経験の浅い修了生が多く参加しているため、いかに自己の活動を意味付け、他との情報交換や連携を進めていくかに討論の中心がある。1年間の事例検討会を通して参加者の目覚ましい資質向上に驚くとともに、参加者の気分転換にも役立っている。